

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

日本獣医解剖学会報

Number 10

July.1996

第122回

日本獣医学会

(8月29日~31日)

帯広畜産大学

大会長 広瀬恒夫教授

第一二二回の秋期学会は、北海道の秋が早く来るために8月末に設定されている。5月末にプログラム編成が締切られた。

の組織細胞化学的研究

へのハーゲー腺の役割

解剖学関係は第IV会場の形態機能科学分野で行われ、8月29日午前9時30分より、31日の午後3時30分まで55題の口演発表がある。当番校の意向で座長はなるべく助教授のペアにお願いし、5題づつを担当していただくことにしたが、都合で帯広に来られない助教授が居られるので、教授が替ってやっていたので、時間が過ぎてしまったようである。演題番号、表題、演者名、機関名略称、のみを以下に列記するが詳細は講演要旨集をみていただきたい。

宮田多佳雄(日大)

北川 浩(鳥取大)

(1) イヌおよびネコの耳下腺管、下顎腺上皮の微細構造

松元光春(鹿大)

(14) Distribution and Development of Lymphocytes in Wistar Rat Peyer's Patches

田中 愼(長寿研)

(2) ウコッケイ口腔腺の糖質組織細胞化学的研究

金子美樹(日大)

(15) Development of Stromal Component of Peyer's Patch: A Morphological Study

竹澤康子(府大)

(3) シバヤギの口唇腺における糖質の光顕ならびに電顕組織化学的研究 鈴木千枝(日大)

中島敏浩(日大)

(16) ニワトリ網膜内、鞘形成細胞の培養系における発生と形態学的検索

譚 建華(大阪府大)

(4) ウマの大唾液腺における糖質

中島敏浩(日大)

(17) 網膜投射線維が侵入するニワトリ網膜関連視蓋の層形成

石川 勉(岩手大)

(5) ウマの口蓋腺と頬腺における糖質の組織細胞化学的研究

樺田辰夫(鳥根医大)

(18) ウスラ視蓋の脳幹投射

小林 中(酪農大)

(6) 亜鉛欠乏ラットにおける嗅覚受容器微細構造の変化について 及川寿浩(鳥居薬品)

Imervation of the Rat Peyer's Patch: Morphological Changes During Development

藤田裕子(鳥取大)

石川 勉(岩手大)

(7) ストレス潰瘍の微小循環の変化とNO、ET及び神経の関係 樺田辰夫(鳥根医大)

明神哲哉(帯広大)

(19) イヌ声門の神経構築

山本欣郎(岐阜大)

(8) Innervation of the Rat Peyer's Patch: Morphological Changes During Development

T.R.Lin (Taiwan)

(20) ニワトリ中脳において交感神経に關与するSP免疫陽性神経投射ニューロン

白石典久(名大)

(9) 牛の脾臓におけるペプチド神経の免疫組織化学的研究

明神哲哉(帯広大)

(21) ニワトリの副腎髓質細胞におけるモノアミンとペプチドの分布

大森保成(名大)

(10) 中枢神経系および末梢臓器におけるATPレセプターの局在 岩水敏彦(北大)

岩水敏彦(北大)

(22) C57BL/6マウスの副腎皮質細胞化学的研究

遠藤秀紀(科学博物館)

(11) 自然産産マウスモデルにおける子宮NK細胞の動態

牧田敦子(府大)

(23) ヒト成長ホルモン遺伝子導入トランスジェニックマウスの遺伝子発現とGHRH・ソマトスタチンニューロン

谷口和夫(北里大)

(12) マウス小腸における上皮内リンパ球の増殖能

今野明弘(北大)

(24) コラーゲン細線維の種による比較

竹花一成(酪農大)

(13) 食餌性抗原に対するニワトリ消化管免疫応答および同定答

消化管免疫応答および同定答

(25) 成熟馬下垂体前葉GH411細胞の性差についての形態計測学的研究

譚 建華(大阪府大)

(14) Distribution and Development of Lymphocytes in Wistar Rat Peyer's Patches

T.Y.Wang (Taiwan)

(26) イヌの消化管壁内ポリグルコサン小体はエビキチン化される

神谷新司(日獣大)

(15) Development of Stromal Component of Peyer's Patch: A Morphological Study

C.Y.Chen (Taiwan)

(27) 高齢ラットの聴覚障害に関するレクタン組織化学的研究

石川 勉(岩手大)

(16) ニワトリ網膜内、鞘形成細胞の培養系における発生と形態学的検索

藤田裕子(鳥取大)

(28) ウシ乳腺の形態的变化と間質におけるグリコサミノグリカン

石川 勉(岩手大)

(17) 網膜投射線維が侵入するニワトリ網膜関連視蓋の層形成

藤田裕子(鳥取大)

(29) ミンククジラ胎仔歯芽形成中のType I, IIおよびIVコラーゲンとラミニンの発現分布

石川 勉(岩手大)

(18) ウスラ視蓋の脳幹投射

小林 中(酪農大)

(30) コラーゲン細線維の種による比較

竹花一成(酪農大)

- 32 隅蹄類の緻密骨の比較組織学的研究Ⅱ 森 陵一(昭和大学)
- 33 牛の緻密骨を形成する葉状骨の微細構造 小高鐵男(昭和大学)
- 34 ネコの歯牙交換期における乳歯根吸収の組織学的観察 木場秀夫(日大・松戸歯)
- 35 糖尿病ラットに認められた白歯の破折 佐加良英治(九州歯大)
- 36 器官培養したラット胎子精果のセルトリ細胞に対するFSHの影響 佐々木基樹(麻布大)
- 37 ラット精果における細胞質ダイニン軽鎖の特徴づけ 前田誠司(東大)
- 38 培養下で再現された精細胞接着機構の微細形態学的検討 中牟田信明(東大)
- 39 マウス精果におけるPhospholipid Glutathione Peroxidaseの発現とその機能解析 南 相允(東大)
- 40 実験的潜在精果における熱ショックタンパク(HSP 90)の動態 大迫誠一郎(鹿大)
- 41 マウス口蓋ヒダの形成過程における上皮層細胞のサイトケラチン分子群の発現変化 鷹栖雅峰(日獣大)
- 42 アロキサン投与による、ニワトリ脾臓における介在導管上皮細胞の微細構造的变化 武藤顕一郎(北里大)
- 43 シラガタケネズミ大唾液腺に関する比較組織学的研究 木村順平(日大)
- 44 フタコブラクダの胃の形態について 額爾敦朝魯(酪農大)
- 45 ウシ、ウマ、ブタの蝸牛の比較形態学的研究 福富 彰(酪農大)
- 46 ラット胎児腎臓に関する組織形態計測学的研究・PCNA陽性細胞の出現率 岩本麻子(府大)
- 47 カドミウム注入後のラットの肝臓と腎臓におけるメタロチオネインの局在性的変化 尼崎 肇(日獣大)
- 48 長波長紫外線(UVA)により誘発されるニワトリ肝臓単離核の構造的変化 荒井惣一郎(酪農大)
- 49 免疫性肝線維症ラット肝におけるI型コラーゲン産生細胞の動態 栗林幸信(京大)
- 50 免疫性肝線維症ラット肝における活性伊東細胞の免疫組織化学的検査 宮本 実(京大)
- 51 実験用ミニブタの心臓の血管系・冠状動脈の樹脂鑄型法による立体的観察

獣医組織学テキストについてのアンケートの結果概要

二宮博義(麻布大) 組織学的研究 栗原 巧(日大)

52 ハト脾臓の血管構築 那須哲夫(宮崎大)

53 ウシの逸所心5例の解剖学的観察 村上隆之(宮崎大)

54 スナネズミの鋳鼻器複合体の

山田純三副会長にまともていただいた、組織学教科書発刊についてのアンケート・集計結果は春の総会で資料として配布された通りであるが、当日参加できなかった会員にその要約を御知らせする。

回答率は獣医学科は50名中46名で、畜産学系では17名中10名であった。

教科書の発刊に賛成とする意見は43名で76・7%。

日本獣医解剖学会編とし(23名)、編集委員会の構成は、会長、副会長に一任する(39名)という意見が多数であった。ぜひ委員にという意欲のある方が30名、資料の提供はするとう方が17名にのぼったことは心強いことである。

内容としては現在のデルマンの組織学をこえるものを(18名)あるいは写真を加えて改善したものを(23名)という意見が大方であった。

用語については和名に学名と英名をつけるとう方が47名で多数であった。

価格帯はカラーを多くして2万円以下(11名)、カラーを多くして1万5千円以下(20名)、カラーを少くとも1万円以内(19名)であった。

細胞学はデルマン程度の簡単なもの(22名)か、出来るだけ詳しくとりいれるか(16名)意見が別れたが、分子生物学では最小限にする(29名)と、取りいれない(14名)ができるだけ詳しくとりいれる(7名)をうわまわった。

方法論をどけ位とりいれるかとの間には最小限(37名)もしくは取りいれない(12名)との消極的な回答が多数であった。

写真や表をスライドやCDにして配布したいとう意向(41

新刊! 好評発売中	
犬・猫の病理診断 カラーアトラス	A4変形判/170頁 定価2,050円 後藤直彰 監修
小動物の がん化学療法	B5変形判/210頁 定価7,210円 藤永 謙 監訳
メルク獣医 マニユアル	A5判/1,900頁 定価3,040円 牧田登之 監修 山根廣久 監修
犬の解剖 アトラス	B4変形判/200頁 定価2,060円 牧田登之 監訳 橋本善之 監訳
獣医内科学 ブローグ	B5判/120頁 定価3,050円 長谷川寛彦 著
英国小動物獣医師会の マニユアルシリーズ	A4変形判/270頁 定価1,540円 印教信行 訳
小動物の眼科学 マニユアル	A4変形判/100頁 定価2,240円 林 良博 監修
犬と猫の行動学 入門編の修正版	A4変形判/190頁 定価1,350円 阿久沢正夫 訳 上村優一 訳
小動物の内分泌 マニユアル	A4変形判/200頁 定価2,240円 櫻井善司 監訳
観賞魚 マニユアル	A4変形判/200頁 定価2,240円 櫻井善司 監訳
好評! 季刊雑誌 獣医皮膚科 臨床	A4判 約200頁 定価1,400円 小動物皮膚科研究会 編集
株式会社 学窓社	〒113 東京都文京区西片2-16-28 TEL 03-3381-8701 FAX 03-3381-8704

名)が強い一方で演習問題などは含めない(47名)のが多数であった。引用文献は44名が含まれると回答している。

さてこのように教科書が出来たときには基本的に採用するというのが38名、内容次第であるというのが11名で、採用できないとする人は皆無であった。

総会での討論をきいてみると、問題点は(一)コンパクトなアトラス形式にするか、(二)詳しい部厚いものにするか、(三)価格帯をどの位に設定するのか、に要約されるようである。

結局のところ、牧田、林、山田、月瀬、が相談して編集方針と、委員の構成を決めて、なるべくはやく着手することにしよという事になった。

帯広の学会までに骨子をと思っていたが実際には作業が進んでいないので学会後に依頼する方々に連絡をとらせていただくことになると思われる。

いずれにしても、ここまでアンケート調査を実施、その集計をしていただいた山田純三先生と教室員の方々に深く感謝する。



解剖体経費の増額要求について

8 大学懇談会においても討論されたが、実験動物の購入費用が高騰していること、またその処理方法について、麻酔薬、ホルマリンなどの固定液、焼却炉の整備等々に世論のきびしい眼を意識した対応が必要になって

実習用の犬の入手について

いることをふまえて、これまでの解剖体経費を約倍増する予算請求を行うことになった。

文部省に打診中であるが、全国の獣医学科が共通して既算要求にあげてくれば検討するとい

うことであるので、各大学の獣医学科長にお願いして、既算要求にとりあげる様に各農学部長、

大学本部の主計課長に請求して

いただいた。

大学によっては早期に平成九

用語集(合冊)印刷段階にはいる

昨年度中に完成する予定であった解剖学、組織学、発生学、の用語集(合冊)は、昨年の学会で組織学用語委員会、発生学用語委員会の委員が変更になったこと、原本の改訂があったこと、

などの要因もあって今年度にずれこみ、会員諸兄弟には大変御迷惑をかけている。

「人物往来」

☆林良博教授(東大) ヒトと動物の関係学会長として、カッパブックスにベストセラーを加えた。

☆福田勝洋教授(名大) 農林水産省家畜衛生試験場で活躍してこられた福田勝洋氏は今年十五日より名古屋大学農学部

☆谷口和美先生(北里大) かねてから岩手医科大学解剖学で研究を続けて来られた谷口和美先生は、北里大学の獣医学

☆山野秀一教授(日本獣畜産大学) 日本解剖学会の評議員に林良

博東大教授の推薦により申請されておられたが学術評議員に認定された。

☆和栗秀一教授(北里大) 前々回第19回学会のシンポジウムでも紹介があったがライフワークとして「家畜総合解剖学」をいよいよ成書として刊行された。またこれとは別に、北里、

☆月瀬 東教授(日本大学) 株式会社アームプレス社より「図説家畜解剖学用語」(訳書)の刊行を準備中で現在は英名も追加するための作業で刊行予定がのびている由である。

☆谷口和美先生(北里大) かねてから岩手医科大学解剖学で研究を続けて来られた谷口和美先生は、北里大学の獣医学

☆山野秀一教授(日本獣畜産大学) 日本解剖学会の評議員に林良

☆和栗秀一教授(北里大) 前々回第19回学会のシンポジウムでも紹介があったがライフワークとして「家畜総合解剖学」をいよいよ成書として刊行された。またこれとは別に、北里、

☆月瀬 東教授(日本大学) 株式会社アームプレス社より「図説家畜解剖学用語」(訳書)の刊行を準備中で現在は英名も追加するための作業で刊行予定がのびている由である。

☆谷口和美先生(北里大) かねてから岩手医科大学解剖学で研究を続けて来られた谷口和美先生は、北里大学の獣医学

☆山野秀一教授(日本獣畜産大学) 日本解剖学会の評議員に林良

☆和栗秀一教授(北里大) 前々回第19回学会のシンポジウムでも紹介があったがライフワークとして「家畜総合解剖学」をいよいよ成書として刊行された。またこれとは別に、北里、

☆月瀬 東教授(日本大学) 株式会社アームプレス社より「図説家畜解剖学用語」(訳書)の刊行を準備中で現在は英名も追加するための作業で刊行予定がのびている由である。

新評議員の推薦について

獣医学会の規約改正に伴い新年度社団法人化されるに際して、評議員数が100名以上150名以下と明記することになったので、旧評議員28名のうち250/300名が過剰になった。そこでこれを「學術評議員」の名称のもとに継承させるとする苦肉の策できりぬけています。ここ二ヶ年でかなりの数の獣医解剖学関係者を評議員に登録していただいたが、それは法人化を目前にしていたので、駆け込み登録のいみもあつた。

最終的には学会本部で審査の上決定されるので、あくまで候補者のリストということである。各専門部会別の候補者数は左表のようである。

基礎獣医学系	199名
病態獣医学系	192名
予防獣医学系	200名
臨床獣医学系	170名
会長推薦	8名
合計	769名

(注) 最終決定までに若干の変動・調整が見込まれる。

基礎獣医学系専門部会 評議員候補者名簿

- (敬称略)
- 安居院高志 浅井史敏 浅野敏彦 浅野隆司 浅利将男 阿閉泰郎 阿部又信 阿部光雄 崎肇 有嶋和義 五十嵐章之 池田正浩 石黒茂 伊出優 伊藤勝昭 伊藤茂男 伊東信夫 稲波修 今井嘉郎 岩佐憲二 岩水敏彦 岩元久雄 上原正人 江口保暢 遠藤克 大賀皓 大島浩二 太田利男 太田光明 大森司紀之 大橋秀法 岡野真臣 岡本敏一 小川絵里 小川和重 小川智也 小倉淳郎 尾崎博 押尾秀一 甲斐真 坂昭夫 加藤了 加藤清雄 金山喜一 金子浩之 鹿野胖 加納康彦 権秀人 神谷新司 飯屋喜弘 川崎安亮 川島由次 湯陽光盛 神田尚俊 菅野富夫 岸倉次郎 岸本直 木曾康郎 北川浩 北澤多喜雄 北村延夫 木村和弘 木村順平 楠原征治 国枝哲夫 暮部勝 九郎 丸正道 黒田治門 桑原厚和 古泉巖 小久江栄一 小林晴男 小松正憲 小盛成一 近藤洪志 近藤康博 権田辰夫 齊藤篤志 斎藤俊之 齊藤昌之 佐伯隆清 佐々木文彦 佐々木康之 笹本修司 佐藤栄輝 佐藤 英明 佐藤元 首藤文栄 塩田邦郎 志賀瑞郎 七條喜一郎 柴田秀史 柴田浩 清水一政 代田眞理子 菅野茂 菅野司 杉田昭栄 鈴木惇 鈴木勝士 鈴木忠彦 鈴木義孝 鈴木嘉彦 関真 瀬田季茂 高橋迪雄 高原齊 滝沢達也 竹内正吉 竹野一 竹花一成 田中真 田辺昭 谷口和之 種池哲朗 田谷一善 醍醐正之 月瀬東 辻正義 津田修治 局博一 津山伸吾 手塚英夫 寺岡宏樹 天間恭介 遠山稿二郎 徳力幹彦 渡植貞一郎 外崎肇一 豊澤敬一郎 鳥居邦夫 内藤順平 内藤博之 中尾健三 中里幸和 中條眞二郎 仲岡一雅 那須哲夫 那須哲之 西尾晃 西田隆雄 西田利穂 西中川駿 西原真杉 西村昌数 西山慶治 橋爪一善 橋本博 橋本善春 長谷川喜久 畑文明 葉原芳昭 吐山豊秋 原幸男 原田悦守 福田勝洋 福田孝一 藤田正一 藤谷英男 藤原克彦 前多敬一郎 牧田登之 政岡俊夫 松井寛二 松沢時弘 松下博治 松田幸久 松本清司 松元光春 眞鍋昇 萬場光一 三浦豊彦 峯尾仁 宮崎茂 宮本亨 宮本元 武藤顕一郎 村上和保 村上隆之 村上昇 森岡宏至 森川嘉夫 森友靖生 矢ヶ崎 修 柳沢光彦 矢野秀雄 山田 健二 山田純三 山田學 山野秀二 山本晋二 山本雅子 湯浅亮 横田博 吉野峰生 和栗秀一 渡辺清隆 渡辺淳 渡辺 敏

編集後記

第12回日本獣医学会が8月29日から31日までと通例の秋の大日会よりも日程がはやいために、第10号のニュースレターも7月に発行することになりました。

帯広畜産大学の山田純三教授の教室の諸兄姉には大変お世話になりました。獣医解剖学会のシナポジウムもプログラム過密のところへ無理をするのもと思いい今回は見送りにしました。替って、次回に韓国の教授に講演していただく予定を立てておりますので、そのイントロダクションとして東大の留学生である南相允君に「韓国における獣医解剖学・組織学の現状」を話してもらいます。ぜひ御参会下さい。

前号以降、会員名簿を作製し発送しました。大改訂(っ)になってしまった為、佐藤英明先生や鈴木秀作先生が含まれない等の大ボカが散見されます。大変申しわけありませんでした。

(編集者)